

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の小田原市の結果について

1 調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査対象：小学校第5学年、中学校第2学年

3 調査事項および内容

- (1) 実技調査・・・新体力テスト（8種目）
 - ①握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横とび ⑤20mシャトルラン（または持久走：一部の中学校）⑥50m走 ⑦立ち幅とび ⑧ボール投げ（小学校：ソフトボール、中学校：ハンドボール）
- (2) 児童生徒に対する質問紙調査・・・運動習慣・生活習慣等に関する項目
- (3) 学校に対する質問紙調査・・・子供の体力向上に係る取組等に関する項目

4 調査実施日

- (1) 実技調査・・・令和4年4月～令和4年7月
- (2) 質問紙調査（児童生徒用、学校用）・・・令和4年7月

5 実技調査の結果

- (1) 体力合計点（平均）の経年比較

	小学校第5学年						中学校第2学年					
	男子			女子			男子			女子		
	市	県	全国	市	県	全国	市	県	全国	市	県	全国
R4	51.62	52.27	52.28	53.51	53.63	54.31	41.08	41.49	41.04	46.29	46.75	47.42
R3	52.14	52.41	52.52	54.60	53.62	54.64	39.77	40.31	41.18	45.97	46.56	48.56
R2	新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止											
R1	53.66	53.17	53.61	54.84	54.25	55.59	43.65	41.71	41.69	50.74	49.66	50.22

※体力合計点：8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して合計した点数

○小田原市の小学5年生の結果は全国平均を下回りました。また、令和3年度の小学5年生の記録と比較しても下回る結果となっております。これは、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン等の画面の視聴時間（スクリーンタイム）の増加が一因となっていることが推察されます。一方で、中学2年生の男子は全国平均を上回るとともに令和3年度の中学2年男子の記録を上回る結果となりました。また、中学2年生の女子は全国平均と比べると下回る結果となったものの、令和3年度の中学2年女子の結果よりも上回る結果となっています。これは、コロナ禍で制限されていた運動部活動等の活動が緩和され、運動する機会が少しずつ確保されたことが大きな要因だと考えられます。しかしながら、令和元年以前の体力合計点（平均）と比べると、まだ低い数値となっているため、今後もさらなる運動機会の確保に努める必要があります。

(2) 判定分布の経年比較（男女平均値）

（単位：％）

小学校 第5学年	A (65～80)	B (58～64)	C (50～57)	D (42～49)	E (41以下)	D・E 合計
R4	9.5	21.6	33.1	23.3	12.7	35.9
(R4全国)	11.3	22.6	33.1	22.6	10.3	32.9
R3	10.3	22.8	33.0	22.4	11.6	34.0
R1	12.4	25.5	33.4	20.1	8.6	28.7

中学校 第2学年	A (57～80)	B (47～56)	C (37～46)	D (27～36)	E (26以下)	D・E 合計
R4	15.7	25.0	30.8	22.1	6.4	28.5
(R4全国)	15.8	26.6	31.7	19.3	6.4	25.7
R3	7.1	22.6	32.9	25.4	12.1	37.5
R1	21.4	32.0	30.1	11.9	4.6	16.5

※判定基準：8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して合計した点数を、括弧（ ）の基準によりAからEの5段階で判定します。

※四捨五入した元データ値（スポーツ庁集計データ）を用いて男女平均値を小数第2位で切り捨てしていることから、A～Eの百分率の値の総和が100にならない場合があります。

○体力判定分布（AからEの5段階判定）の結果、D・Eと判定された児童生徒の合計は、全国平均と比較すると、多い結果となりました。特に小学5年生では過去3年間と比較しても最も多い割合となっています。一方、中学2年生では、D・Eと判定された生徒の合計が、令和3年度と比較すると大幅に減っています。これは、部活動の再開が大きな影響を与えていると推測できます。しかし、令和元年度以前と比べると全体的にはまだ多い割合となっています。今後は休み時間等を活用したさらなる運動機会の確保に努めるとともに、体育/保健体育の授業でも指導の工夫・改善を常に行っていく必要があると考えます。また、中学校では運動部活動における練習内容等の充実をより一層図るなどの取組が求められています。

(3) 種目ごとの平均値

*T得点:全国平均値を50点とした時の相対的な得点を示すもの

(全国比+は下線あり)

小学校 第5学年	男子				女子			
	小田原市	神奈川県	全国	T得点	小田原市	神奈川県	全国	T得点
握力 (kg)	<u>16.60</u>	16.80	16.21	51.0	<u>16.29</u>	16.57	16.10	50.5
上体起こし (回)	<u>19.24</u>	19.20	18.86	50.6	<u>18.51</u>	18.12	17.97	51.0
長座体前屈 (cm)	<u>35.71</u>	35.28	33.79	52.1	<u>39.41</u>	39.40	38.18	51.4
反復横とび (点)	39.90	38.91	40.36	49.5	37.72	36.65	38.66	48.8
20mシャトルラン (回)	42.18	43.57	45.92	48.2	33.11	33.15	36.97	47.6
50m走 (秒)	9.53	9.50	9.53	50.0	9.72	9.70	9.70	49.9
立ち幅とび (cm)	142.28	150.00	150.83	46.4	135.55	142.70	144.55	46.0
ソフトボール投げ (m)	<u>20.43</u>	19.84	20.31	50.1	13.11	12.75	13.17	49.9
体力合計点 (点)	51.62	52.27	52.28	49.3	53.51	53.63	54.31	49.1

中学校 第2学年	男子				女子			
	小田原市	神奈川県	全国	T得点	小田原市	神奈川県	全国	T得点
握力 (kg)	<u>29.79</u>	29.06	28.99	51.1	22.61	23.17	23.21	48.7
上体起こし (回)	25.31	25.98	25.74	49.3	<u>21.78</u>	21.35	21.67	50.2
長座体前屈 (cm)	<u>45.90</u>	44.68	43.87	51.8	<u>46.19</u>	46.12	46.07	50.1
反復横とび (点)	48.88	50.52	51.05	47.6	43.34	44.86	45.81	46.6
持久走 (秒) <small>一部のみ実施</small>	438.31	410.57	409.81	46.0	331.13	311.87	302.89	44.2
20mシャトルラン (回)	75.07	78.53	78.07	48.8	51.26	49.39	51.60	49.8
50m走 (秒)	<u>7.91</u>	7.97	8.06	51.4	<u>8.93</u>	8.91	8.96	50.4
立ち幅とび (cm)	195.91	196.43	196.89	49.7	164.55	165.21	167.04	49.0
ハンドボール投げ (m)	<u>21.38</u>	20.26	20.28	51.8	<u>13.05</u>	12.28	12.45	51.4
体力合計点 (点)	41.08	41.49	41.04	50.0	46.29	46.75	47.42	49.0

○小学5年生では握力、上体起こし、長座体前屈の記録が全国平均と比べて高くなっています。中学2年生では長座体前屈、50m走、ハンドボール投げの記録が全国平均と比べて高くなっています。これは、体育/保健体育の学習で、体づくり運動の単元を中心に、個人でも行うことができるストレッチ運動や体力を高める運動等の学習が多く行われていることが影響していると考えられます。一方、20mシャトルランや立ち幅跳びの記録は全国平均と比べて、ここ数年は下回る傾向が見られます。こうした「全身持久力」や「瞬発力」の低下については、幼少期の運動経験が関わっているだけではなく、運動する児童生徒と運動しない児童生徒の二極化やゲーム機等の普及による外遊びの減少等も原因だと推察します。小学校においては、体育の学習だけではなく、生活の中での運動機会の確保や自ら運動しようと思う児童の育成に向けた活動や取組の工夫が必要です。

6 質問紙調査の結果

(1) 児童生徒質問紙調査の結果から

(単位:%)

小学校第5学年	回答	男子		女子	
		小田原市	全国	小田原市	全国
運動が好き	好き・やや好き	91.1	92.4	85.4	85.9
体育の授業は楽しい	楽しい・やや楽しい	93.0	94.0	87.5	89.5
運動は大切である	大切・やや大切	92.9	93.4	88.7	90.7
体育の授業以外の運動時間	1週間の総時間(分)	630.0	559.3	358.9	344.1
平日、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見る時間	3時間以上	49.6	41.1	44.9	34.8
	うち、5時間以上	23.8	17.0	20.1	12.7
できないことができるようになったきっかけ(複数回答可)					
・授業中先生に個別にコツやポイントを教わった		41.1	41.3	36.1	35.6
・授業中に自分で工夫した		44.3	39.9	41.1	36.0
・友達に教えてもらった		55.6	50.4	65.0	60.8
・授業中に自分の動きを動画で見た		16.9	11.2	11.9	11.3
できるようになったことがない		6.2	4.0	3.5	2.8

中学校第2学年	回答	男子		女子	
		小田原市	全国	小田原市	全国
運動が好き	好き・やや好き	87.2	88.9	77.2	77.3
保健体育の授業は楽しい	楽しい・やや楽しい	88.7	90.9	83.3	83.8
運動は大切である	大切・やや大切	90.3	92.1	84.9	86.6
体育の授業以外の運動時間(部活動の時間を含む)	1週間の総時間(分)	744.1	747.9	595.0	528.4
平日、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見る時間	3時間以上	58.2	47.5	54.2	45.1
	うち、5時間以上	26.3	17.0	19.6	15.2
できないことができるようになったきっかけ(複数回答可)					
・授業中先生に個別にコツやポイントを教わった		40.2	37.7	42.4	36.8
・授業中に自分で工夫した		47.4	42.4	41.4	37.4
・友達に教えてもらった		55.0	56.8	65.8	67.2
・授業中に自分の動きを動画で見た		12.1	8.3	12.0	10.0
できるようになったことがない		4.8	4.9	3.5	3.9

- 「運動が好き」「体育/保健体育の授業は楽しい」と回答した校種別男女別合計値は全国平均と比べると下回る数値となりました。特に令和3年度に全国平均を上回っていた「体育/保健体育の授業は楽しい」と回答した割合も全国平均を下回る結果となっています。日頃の体育/保健体育の授業をより充実させ、運動好きの児童生徒の育成につながるようにしていく必要があると捉えています。
- できないことができるようになったきっかけとして「友達に教えてもらった」と回答した児童生徒の比率が高くなっています。友達と一緒に学び合うことで、より運動の楽しさを味わったり、めあてとしていたことができるようになったり、運動に対して前向きに取り組めるようになったりすると考えられます。また、「自分で工夫した」「自分の動きを動画で見た」と回答した児童生徒が全国平均よりも非常に多いことから、自分で課題に向き合うことができる児童生徒が多く、解決に向けた手段の1つとして、授業内でICTが有効に活用されていることがわかります。一方で小学校では「できるようになったことがない」と回答した児童が全国平均を上回っていることから、一人ひとりに合っためあての持ち方、目標設定の工夫などが必要になっています。
- テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン等の画面の視聴時間は、令和3年度に引き続き、小中学校ともに全国平均を大きく上回っています。約半数の児童生徒が、平日3時間以上を視聴時間に充てています。児童生徒一人ひとりが自己の生活を見直し、健康な生活を送るための知識や生活習慣を身につけていくことも必要なことと考えています。

小学校・中学校	回答	小学校		中学校	
		小田原市	全国	小田原市	全国
体育授業について					
目標を児童生徒に示す	いつも取り入れている	36.8	49.2	80.0	67.3
学習したことをふり返る活動	いつも取り入れている	47.4	36.1	70.0	54.0
児童生徒が助け合い、役割を果たす	いつも取り入れている	42.1	40.6	60.0	48.4
児童生徒同士で話し合う活動	全ての学年で取り入れている	52.6	59.6	100.0	88.9
授業中のICTの活用状況	動きを撮影	100.0	90.6	100.0	89.5
	試合の様子を撮影	27.8	31.8	80.0	32.6
	以前の動きとの比較	38.9	60.8	60.0	50.5
学校全体で体力・運動能力の向上に係る取組					
体力・運動能力の向上に係る取組	行った(一部学年を含む)	73.7	85.8	60.0	56.7

- 体育/保健体育の学習では、児童生徒一人ひとりが運動の意味や楽しさを実感し、進んで運動に親しむ態度や粘り強く取り組む態度、生涯にわたって運動に親しもうとする態度の育成を目指しています。そのため、目標を示すだけでなく、児童生徒が学習したことをふり返り、自己に合っためあてを考えるなど、学習の見通しを持てるようにする取組や児童生徒同士が話し合う場面を設定し、協働的な学びができるようにすることが大切だと考えています。中学校ではすべての項目で全国平均を上回る結果となりました。引き続き、発達段階に応じた適切な学習指導に取り組んでまいります。
- ICTの活用の状況は、すべての学校で「児童生徒の動きを撮影する」ことに利用されており、全国と比べても高い水準となっています。試合の様子を撮影したり、以前の動きとの比較に利用したりすることで、児童生徒が合理的・科学的に課題を解決するための補助ツールとしての活用が広がっていると考えられます。
- 「体育以外での体力・運動能力の向上に係る取組」に対する回答では小学校が全国平均を大きく下回っています。中学校では全国と比べると上回っているものの、学校によって取組に差があります。
- 「運動が好き」と回答した児童生徒の割合が多い小中学校では、中休み・昼休み等に用具を貸し出すなど運動に親しむ機会の確保に努めています。体育/保健体育の授業以外の時間にも児童生徒が運動の楽しさを感じるきっかけとなり、「一週間の総運動時間」の増大につながっていくものと考えています。

7 今後の主な取組

<各学校において>

- 「新体力テスト」等により、児童生徒の体力・運動能力の現状を把握し、その結果を参考に体育の授業以外でも運動に親しむ機会を設定するなどの取組を実施していきます。
- 体育や保健体育の授業が好きな児童生徒が増えるように、体育学習では、児童生徒が主体的に学習に取り組めるような学習課題の工夫や仲間との話し合い活動等を通じた協働的な学びに取り組んでいきます。体力・運動能力の結果だけに捉われることなく、自ら運動に関わろうとする心の育成にも努めます。

<市教育委員会において>

- 心身ともに健康で安全な生活の実現を目標に運動・スポーツに関わろうとする態度や健康で安全な生活を自ら営むための知識及び生活習慣を育むことができる児童生徒の育成に向け、各校に指導・助言を行います。
- 体力・運動能力向上指導員を小学校に派遣し、児童に直接助言・示範することで体力・運動能力の向上に努めます。また、オリンピック・パラリンピアン等の著名なアスリートを小中学校へ派遣することで、児童生徒が運動に対する関心・意欲を高め、自ら運動に親しもうとする態度の育成を推進します。
- 体力向上プロジェクト会議を開催し、体力・運動能力の向上に向けた取組を話し合い、情報提供に努めます。